

巨樹・巨木-2

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安 治

木場公園の四季

原稿を書いている今の時点で木場公園は春たけなわ花盛りであります。

そこで身近な木場の樹々たちの四季をご紹介しますと思いつきました。

四季と言えば、「春夏秋冬」公式の新年度とは4月、春から始まる。そこで勝手ながら今回のスタートは春からといたします。

春の樹題は言わずと知れた桜、人生のスタートともいうべき、小学校の入学式オット今の人生のスタートは幼稚園、保育園からでしょうか。学卒者が新しく社会人となりそれぞれ就職し入社式にならび、社長の訓示を聞く。こんな風景が彼方此方みられる。筆者のような半ば世捨て人？まだ早いな。さえも春が来た。新年度だ。新しい歳の始まりだ。と実感する。お正月は暦の上で生活の歳の初めとなる。が4月新年度は仕事のうえでのスタートとなる。違いがあるがなんとなくどちらが印象に残るか。と言えどどちらかな？こんなアンケートを取ればお正月に軍配が上がるだろう。「花は桜木人は武士」「春爛漫の花盛り」「花より団子」等など様々な表現があり楽しいものだ。季節は桜を始め、様々な花を咲かせ青葉若葉を芽吹かせ繁らせ、人々に対し新しい歳の門出を祝ってくれると解釈している。

◇木場公園

ご存じ木場公園は、旧木場の北、平野4丁目か福砂通り（現葛西橋通り）を木場公園大橋で大きく跨ぎ、旧西海軍堀後にできた木材堀に向かって周囲に製材所が建ち並ぶ木材堀を有し南は木場三丁目の大横川から分流した油堀川となり、木場を東西に分け水門を潜って隅田川に注いでいる。人の流れと物の流れは水（みず）の道から（現在は埋め立てられ高速道路^{おひか}陸の道となっている）。

水の道はいまでは緑が植栽され散歩道や公園、子供たちの遊び場となって今は全く旧木場の面影は見られない。

一方東西はと見れば、東は大横川に並行して建ち並ぶ平野四丁目から東陽5丁目迄、西は三つ目通りまでとなっている。前述の南北を結ぶ木場公園大橋までを北広場、橋を渡れば南広場となり前述の油堀川までの大空間である。木場公園は、東京都江東区にある都立公園である。地名としては、木場、平野および三好にまたがる。総面積は24.2haで、当地近辺においては、貴重な緑豊かな場所である。元々、地名の由来通り、近辺は材木業関連の倉庫や貯木場などが多かった。

所在地：〒135-0023 東京都江東区平野4丁目6-1

1969年（昭和44年）- 新木場に材木業者が移転するのを受けて、当地に公園を作る都市計画を策定（引き続き用地確保の準備が進む）。

1975年（昭和50年）- 昭和天皇在位50年の記念公園として位置付けられることが決まる。



木場公園全体



木場公園南広場の桜

1992年(平成4年)6月1日 - 開園。

ウィキペディアより参照

◇桜

桜は、バラ科サクラ亜科サクラ属の落葉高低木。日本ではヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、チョウジザクラ、マメザクラ、タカネザクラ、ミヤマザクラ、クマノザクラの10種を基本にして、変種を合わせると100種以上の桜が自生しており、沖縄には野生化したといわれるカンヒザクラがあり、またこれらから育成された園芸品種は200以上もあり、一重咲きや華やかな八重咲き、枝垂れ咲きなど、品種によって多様な咲き姿や色合いがある。

筆者の自宅は、大横川沿いの大門通りに面し、細田創業の地で1976年(昭和51)に新木場へ移転する前は工場があった。大横川を渡れば木場公園は目の前だ。木場公園を本拠地としている深川ラジオ体操会に所属しており、お世話係も仰せつかっており、ほぼ毎日欠かさずラジオ体操をしている。こんなことから木場公園の四季について興味深く観察する機会が多い。

◇1月

お正月には、昨年から持ち越しの山茶花、寒椿、フクジュソウ、落の臺などが見られるが特にこれと言った大きな花はない。1月に目につくことは、櫻などの落葉広葉樹が寒さと寒風にも負けず、厳寒の空を貫くように、毅然として立っているさまは、男性的で好きな木の一つだ。

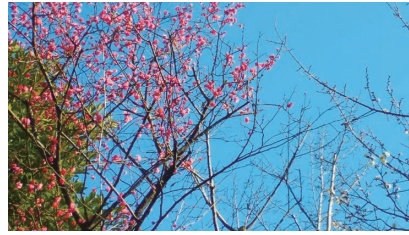
また常緑広葉樹の楠などの大木が寒風にあおられているさまは、まるで深海の海藻が海のうねりに大きくのたうちながら、「負けるものか」と言っている言葉が聞こえるような気がする。1月に限らず冬の期間はこの樹々たちを見ながら、我々深川ラジオ体操会は、常に100名弱の元気者の集まりで「寒さにも北風にも負けるものか」と、ラジオ体操で寒さを吹き飛ばせと頑張っている。

◇2月

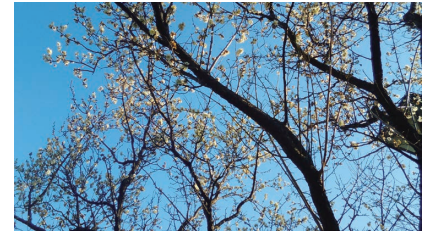
大寒桜おおかんが名前に恥じず、大寒の凍えるような寒さの中、先ず咲き出し東西から広場をのぞくように4, 5本ずつ咲き始め広場を彩っていく。筆者の不勉強から「ダイカンザクラ」と発声したら「違うよ。オオカンザクラ」だ。と注意された。よく言われるのは、ホントか、ウソかを見破るときに使う音訓よみだ。大寒を、オオカン、と言うか、ダイカンと言うかで嘘を見破る。大門通りを「ダイモン」通りと言えbaum



黄梅



紅梅



白梅

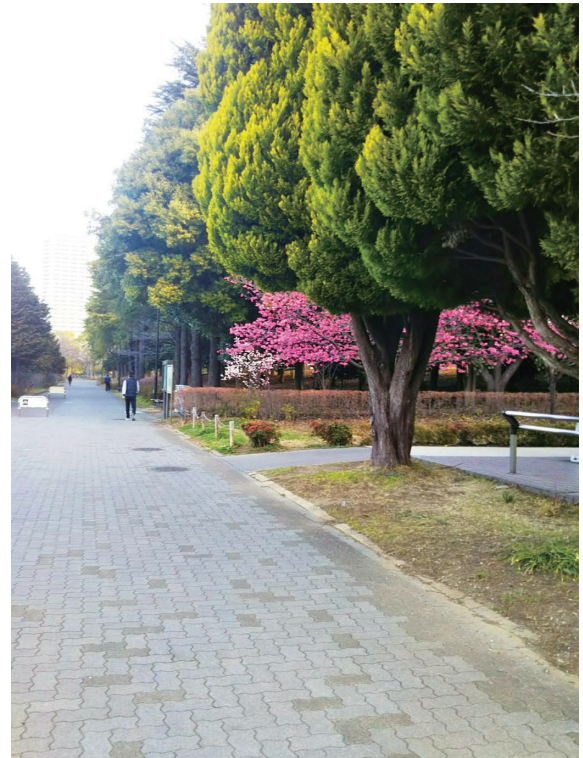
ソ「オオモンドオリ」と言えばホントとなる。言問橋も同じだ。ゲンモンハシとえば、ウソになる。こんなことを思い出した。

次に咲き出すのは梅だが、梅は大きく分けて三種類ある。寒中のなかから、蕾を開かせようとする黄梅もきれいな花の一つで、黄梅が咲きだすと季の分れとして節分を迎え春になる。

次は紅梅、紅もいくつかあり、ピンクあり、真っ赤な梅もある。紅梅が咲き始め一呼吸おいて白梅が咲く。曲がり角や、公園の道端に左右対称で植えられているが、白梅の勢いが強く紅梅を押しつけているケースが多い。紅梅はやせ細り白梅がのし上がる。人間社会の競争を見ているような思いた。紅梅が可哀そうな気がするのは筆者だけだろうか。

数年前までは、紅白の枝先が絡み合い、仲睦まじきに見えたが今年白が出しゃばりすぎている。ご存じの方もいらっしゃるかと存じますが、木場公園北広場の、木場公園大橋南麓の階段脇に数本の紅梅、白梅がある。日当たりもよく木場公園で一番早く咲く梅ではないだろうか。

尚梅の種類も数多く豊後梅と称する濃いピンクの梅がある。木場公園テニスコートわきの売店のそばに咲いていた。「兄の手柏」の緑と金色の新芽との調和、まっすぐ伸びる北向きの道路は遠近法を使ったスケッチのような素晴らしいスポットである。



兄の手柏と豊後梅

ドラッカー言葉-3

◇マネジメントの役割

マネジメントとは事業に命を吹き込む存在である。そのリーダーシップなくしては、生産資源は単なる資源にとどまり生産はなされない。彼らの能力と仕事ぶりが、事業の成功さらに事業の存続さえ左右する。マネジメントこそ企業が持ちうる唯一の強みである。 現代の経営